

すぐに わかる えびののこつ
いっき わかい えびのんこつ



つか
えびののアカマツが使われている

とうだいじだいぶつでん こうりょう
東大寺大仏殿の虹梁



なら とうだいじだいぶつでん こうりょうざいあかまつあとちきねん ひ しらとりじんじや
奈良東大寺大仏殿虹梁材赤松跡地記念碑 (白鳥神社)

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次

1. 東大寺大仏殿とうだいじだいぶつでんって？・・・・・・・・・・ 1
2. 東大寺は誰だれが？いつ建たてたの？・・・・・・・・・・ 2
3. 東大寺大仏殿とうだいじだいぶつでんと大仏だいぶつさまの大きさは？・・・・・・・・ 5
4. 虹梁こうりょうになるアカマツはどこにあったの？・・ 6
5. こんな大きな虹梁こうりょう（アカマツ）を
どのようにして運はこんだの？①
（白鳥しらとり～鹿児島港かごしまこう）・・・・・・・・ 7
6. こんな大きな虹梁こうりょう（アカマツ）を
どのようにして運はこんだの？②
（鹿児島港かごしまこう～兵庫津ひょうごつ）・・・・・・・・ 10
7. こんな大きな虹梁こうりょう（アカマツ）を
どのようにして運はこんだの？③
（兵庫津ひょうごつ～奈良なら 東大寺とうだいじ）・・・・・・・・ 12
8. 現在の東大寺大仏殿げんざい とうだいじだいぶつでんはいつ完成かんせいしたの？・・ 13



とうだいじだいぶつでん
東大寺大仏殿って？



とうだいじだいぶつでん せかいさいだいきゅう もくぞうけんちくぶつ
東大寺大仏殿は、世界最大級の木造建築物で

せかいいさん どうろく
世界遺産にも登録されています。

とうだいじだいぶつでん こうりょう
その東大寺大仏殿をささえている虹梁に、えび

つか
のアカマツが使われています。



とうだいじだいぶつでん
東大寺大仏殿 (えびの市歴史民俗資料館 館内展示写真)

こうりょう
【虹梁】

にじ じょうぼう そ も はり
虹のように上方にやや反りを持たせた梁。(参考文献/国語大辞典 新装版 小学館)

はり
【梁】

やね おも ささ はしら うえ よこ き
屋根の重みを支えるために柱の上に横にわたした木。(参考文献/例解小学国語辞典 第4版ワイド版 三省堂)



とうだいじ
東大寺は
だれ た
誰が？いつ建てたの？



ならじだい みやこ へいじょうきょう さか
奈良時代、都であった平城京は栄

えていました。

しょうむてんのう
聖武天皇
だい だいてんのう
(第45代天皇)

ねん ならじだい しょうむてんのう そくい
724年(奈良時代)聖武天皇は即位

ねんおうじ う ねんご な
します。727年皇子が生まれますが1年後に亡くな

ひで こうずい じしん でんせんびょう はんらん
ります。そのころ日照り、洪水、地震、伝染病、反乱

さいなん つづ
と災難が続きました。

しょうむてんのう ほとけ ちから わざわ たたか
聖武天皇は仏の力で、災いや戦いをしずめ

くに へいわ ねが こ せかい
て国が平和であるようにとの願いを込めて世界に

るい だいぶつぞうえい はっぴょう
類のない「大仏造営」を發表します。

ねん ならじだい こんじきかがや
752年(奈良時代)金色輝

だいぶつぞう かんせい かいげん
く大仏像が完成し、開眼の

だいほうよう おこな
大法要が行われました。



かいげん だいほうよう かいげんくよう
【開眼の大法要(開眼供養)】

あたらし ぶつぞう ぶつが つく さいご め たまい わか い くよう
新しい仏像、仏画を作り、最後に目を入れて魂を迎え入れるときにする供養。(参考文献/広辞苑 第5版)

ご ねん へいあんじだい
その後、1180年（平安時代）

へいか だいぶつでん や お
兵火により大仏殿は焼け落ちます。



ちやうげん だいぶつ しゅうり だいぶつでん
重源が大仏の修理と大仏殿の

さいけん みなものよりと
再建にとりかかり、源頼朝など

えんじよ ちやうげん どりよく ぜんい
の援助と重源の努力、そして善意

ちやうげんじやうじん へいあんじだい かまくらじだい
重源上人 平安時代から鎌倉時代
しよき じやうどしやう そう
初期の浄土宗の僧。

ひと ほうし ねん かまくら
の人たちの奉仕で1195年（鎌倉

(参考文献/学研現代新国語辞典改訂第4版)

じだい だいぶつでん かんせい だいくようえ ひら
時代) 大仏殿が完成し、大供養会が開かれました。

ねん むろまちじだい だいぶつでん
1567年（室町時代）大仏殿は

ふふた へいか
再び兵火にあいます。



ねん え どじだい さい とうだいじ だいきいん
1660年（江戸時代）13歳で東大寺の大喜院

はい こうけい あめ ふ なか いた すがた
に入った公慶は、雨がしとしと降る中に痛ましい姿

だいぶつ はい じぶん かさ
の大仏を拝し、自分には傘があ

るのに、大仏は屋根もない所で

ひやくねん ふうう おか つづ
百年あまりも風雨に侵され続

おも
けていると思ったのです。



こうけい だいぶつ さいけん けつ
このとき公慶は大仏の再建を決意しました。

すうねんごこうけい えど いた
それから20数年後公慶は江戸へ至り



とくがわつなよし ごだいしよくん
徳川綱吉(五代将軍)

とくがわばくふ だいぶつしゅうり たんが
徳川幕府に大仏修理を嘆願します。

とうじ しょうぐんつなよし しんこうしん ふか
当時の将軍綱吉は信仰心が深くこの

たんが ぬる
嘆願を許しました。

こうけい ひやくねんまえ ちょうげん
公慶は、5百年前に重源が

だいぶつさいけん つか かんじんしゃく
大仏再建のとき使った勧進勺

もち きしん すす
などを用いて、寄進を勧めはじめます。



こうけいしょうにん
公慶上人

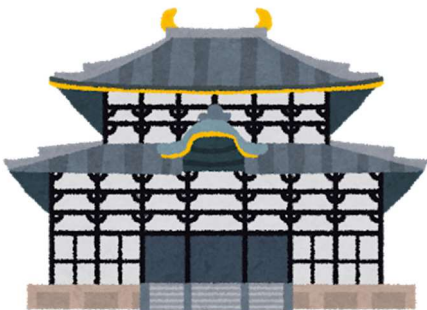
えどじだい だいぶつてんふっこう
江戸時代の 大仏殿復興において
ちゅうしんてき やくわり は そう
中心的な役割を果たした僧。

(参考文献/『大仏開眼 | 250 年東大寺のすべて』)

こうけい ひが かんせい ひとびと きしゃ したい ふ
公慶の悲願を知った人々からの喜捨も次第に増

え、その輪は全国へと広がり、東大寺大仏殿は

ねん えどじだい かんせい
1708年(江戸時代)に完成しました。



えどじだい かんせい とうだいじ
江戸時代に完成した東大寺

だいぶつてん こうりょう
大仏殿の虹梁にえびののアカ

つか げんざい ねん
マツが使われ、現在まで300年

いじょうとうだいじだいぶつてん
以上東大寺大仏殿をささえています。

かんじんしゃく
【勧進勺】

ひしやく ほんらいゆ みず
柄杓は本来湯や水をくむための物である。勧進勺は、重源上人が喜捨(喜んで寺社・貧しい人に寄付すること)を
受ける時に用いられたと伝えられている。

(参考文献:『国語大辞典 改裝版』『特別展 東大寺公慶上人 江戸時代の 大仏復興と奈良』)

どうだいじだいぶつでん
東大寺大仏殿と

だいぶつ おお
大仏さまの大きさは？



よこから見た大仏殿 (えびの市歴史民俗資料館 館内展示パネル)

だいぶつでん たか やく せいなんやく なんぼくやく
大仏殿の高さは約49m、西南約57m、南北約

50mあります。

だいぶつ せいしきめいしょう どうぞうるしゃなぶつぎぞう
大仏さま(正式名称/銅造盧舎那仏坐像)の

たか 高さは、14.98m、顔の長さは約5.3m、目の長さ

やく みみ なが やく はな たか
は約1m、耳の長さは約2.5m、鼻の高さは約50

みぎてのひら なが やく ひだりあし かかと つまさき
cm、右掌の長さは約2.5m、左足(踵~爪先)の

なが やく だいざ れんげざ たか やく
長さは約3.7m、台座(蓮華座)の高さは約3mあ

ります。



こうりょう
虹梁になるアカマツはどこにあ
ったの？



しらとりじんじゃ ししてい ゆうけいぶんかざい しょざいち しすえなが
白鳥神社(市指定 有形文化財 所在地 えびの市末永)

だいぶつでん た
大仏殿を建てるには、

おお こうりょう ほん
すごく大きな虹梁が2本

ひつよう
必要でした。

み きりしま しらとりじんじゃさんどう
やっと見つけたのが、霧島の白鳥神社参道にあ

おお りっぱ ほん
った大きくて立派なアカマツ2本でした。

きよだい き たお げんろく ねん
この巨大なアカマツを伐り倒すのに元禄16年

がつ ぼんめ そまびと にん かかん ほんめ
(1703)9月、1本目は杣人90人で4日間、2本目

そまびと にん かかん
は杣人100人で3日間かかったとされています。

ほん き たお あと ひつよう ぶぶん き と
この2本は伐り倒された後、必要な部分が切り取

ぼんめ なが
られました。1本目の長さは25.6m、

おも ほんめ おな
重さ23.2トン、2本目も同じくらいの

おお
大きさがありました。

【杣人】

そまき き ぎょう しごと ひと
杣木を伐るとことを業(仕事)とする人。きこり(参考文献/広辞苑 第5版)



ならとうだいいだいぶつでんこうりょうざい
奈良東大寺大仏殿虹梁材
あかまつあとちきねん ひ
赤松跡地記念碑

おお こうりょう
こんな大きな虹梁(アカマツ)を

はこ
どのようにして運んだの？①

しらとり かごしまこう
(白鳥～鹿児島港)



げんろく ねん しょうがつ か しらとりじんじゃ
元禄17年(1704)正月7日より白鳥神社から

うんぱん はじ
アカマツの運搬が始まります。

しらとりじんじゃ なら うんぱん うみ で
白鳥神社より奈良まで運搬するには、海に出て

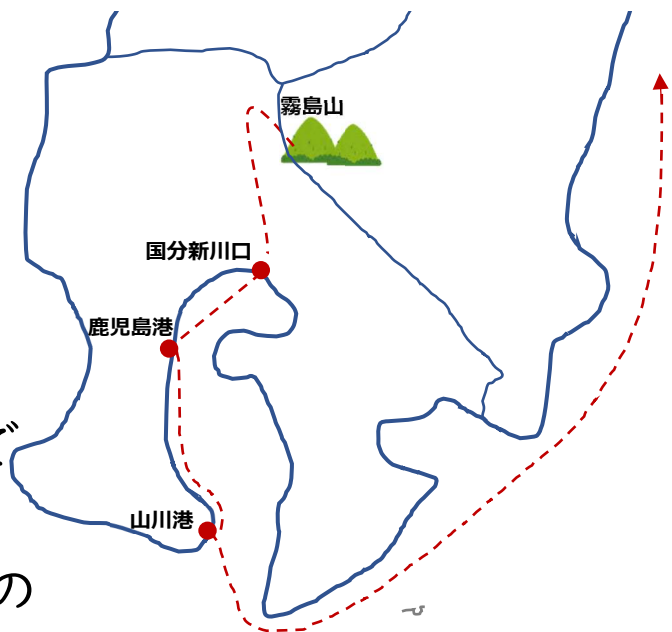
ふね はこ
船で運ばなければ

なりません。

みなと かごしま
港のある鹿児島

わん こくぶしんかわぐち
湾の国分新川口まで

りはん やく
16里半(約66 km)の



みち きょだい はこ たいへん
道のりでしたが、巨大なアカマツを運ぶのに大変

うかい だこう じっさい り やく
な迂回や蛇行をするしかなく、実際には 23里(約

90 km)になったそうです。

しらとりじんじゃ こくぶしんかわぐち せいかく
白鳥神社より国分新川口までの正確なルートは

わかっていません。

もくてきち こくぶしんかわぐち つ がつ か
目的地の国分新川口に着いたのは、5月4日

しゅっぱつ にち た
でした。出発してから115日経っていました。

さぎょう どうにゆう にんぶ の まんにん うし
この作業に投入した人夫は延べ10万人、牛

とう
が4000頭とのことです。

にちへいきん にん
1日平均860人と

とう にち はこ
34頭で、1日に運んだ

きより へいきん
距離は平均800mと

のことですから、とても

たいへん うんぱんさぎょう
大変な運搬作業だったことがわかります。



がつ か しんかわぐち つ
5月4日新川口に着いた

ほん がつ にち
2本のアカマツは、5月17日

はまのいち いかだ く ふね そう ひ か
に浜之市から筏に組まれ船6艘に引かれて3日

がかり かいろ り やく わた かごしまこう
掛りで海路8里(約32km)を渡って鹿児島港に

はこ
運ばれました。

かごしま せとないかい
鹿児島から瀬戸内海に

はい なみ あら ところ
入るまでは波の荒い所が

おお はこ
多く、どのようにして運ぶの

もんだい
かが問題になりました。

ふね は かい しんぱい
船が破壊される心配がある

うんぱん ひ う
運搬を引き受けたのは、

しぶし かいせんどんや
志布志の回船問屋・

やましたやごろう かのんまる ふなぬし
山下弥五郎(観音丸の船主)でした。

やましたやごろう も ふね かのんまる いぜんそうなん
山下弥五郎の持ち船「観音丸」が以前遭難した

とき のりくみいん きせきてき せいかん しんぶつ たす
時、乗組員が奇跡的に生還したのは神仏の助けと

かんしゃ ほか かいせんぎょうしゃ きよだい
感謝して、他の回船業者がこの巨大なアカマツの

うんぱん しりご たい だいぶつさま れい
運搬に尻込みしたのに対し、大仏様へのお礼にと、

こうべこう うんぱん ひ う
神戸港までの運搬を引き受けたとのことでした。

【回船】

かいじゅう うんそう つか おお わせん まどしだい はつたつ
海上の運送に使う大きな和船。江戸時代に発達した。(参考文献/学研現代新国語辞典 改訂第4版)





おお こうりょう
こんな大きな虹梁(アカマツ)を

はこ
どのようにして運んだの？②

かごしまこう ひょうご っ
(鹿児島港～兵庫 津)

かんのんまる せんごくぶね おお かもつせん
観音丸は千石船で、大きな貨物船でしたが、

おお ほん ふね の むずか
この大きな2本のアカマツを船に乗せるのは難

しいことでした。

どのようにして積んだのかというと、まず、観音

まる ふなぞこ あな うみ なか しず ほん
丸の船底に穴をあけて海の中に沈めます。2本

うみ うえ うか しず かんのんまる
のアカマツを海の上に浮かばせ、沈めた観音丸

うえ いどう
の上まで移動させ、



ふね ふじょう こうりょう さゆう っ
船を浮上させて虹梁を左右に積
むという名案を出したのは弥五郎
の娘であったといわれています。

(参考文献『特別展 東大寺公慶上人江戸時代の大仏復興と奈良』)

かんのんまる りょうがわ
観音丸の両側に

そう ひやくこくぶね
2艘の5百石船を

と っ あ
取り付け、開

あな と
けた穴を閉じて



ふね なか かいすい か だ せんごくぶね う
船の中の海水を掻き出し、千石船を浮かばせ

てアカマツを船に積みました。

かんのんまる がつ か かごしま しゅっこう かいじょう り
観音丸は6月20日鹿児島を出港、海上13里

やく はし よく にち やまかわこう つ
(約52km)を走り、翌21日に山川港に着きまし

たいふう せっきん
たが、台風が接近し

しゅうかんやまかわこう
ており、2週間山川港

ていはく
に停泊しました。



がつ かたいふうよ は みなみかぜ りょう きゅうしゅとうほう
7月5日台風余波の南風を利用し九州東方

かいじょう ひゅうがなだ きた すす せとないかい はい
海上(日向灘)を北に進み、瀬戸内海に入り、

かいじょう り やく
海上およそ270里(約1100km)をわずか7

かかん にち ひょうご つ とうちゃく
日間で、12日に「兵庫の津」に到着しました。



とうだいじだいぶつてんこうりょうはんそう
東大寺大仏殿虹梁搬送ルート(えびの市歴史民俗資料館 館内展示パネル)



おお こうりょう
 こんな大きな虹梁(アカマツ)を
 はこ
 どのようにして運んだの？③
 ひょうご つ なら とうだいじ
 (兵庫 津～奈良 東大寺)

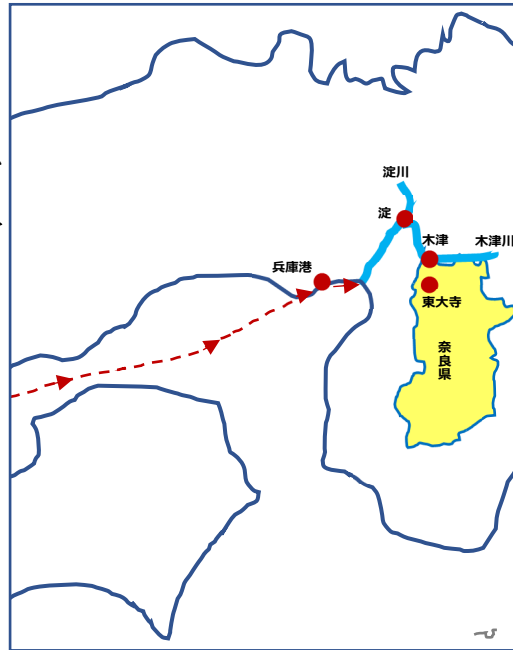
かんのんまる お
 観音丸から下ろされた

ひょうご おおさか
 アカマツは、兵庫から大阪

よどがわ り やく
 の淀川を8里(約32km)

よど とうちやく
 さかのぼり淀に到着し、

よど きづがわ
 さらに淀から木津川を



がっ か きづ とうちやく
 さかのぼり8月10日に木津へ到着しました。

きづ はま りくあ ほん
 木津の浜で陸上げされた2本のアカマツはコロ

だいしゃ ふえ たいこ おんど はこ
 や台車をつかい笛や太鼓の音頭で運ばれました。

きしんび
 「寄進引き」

おお ひと ほうし
 多くの人が奉仕として

ろうりよく ていきよう
 労力を提供しました。

(参考文献『大仏開眼 1250年東大寺のすべて』)



だいぶつでん こうりょう はこ ひとびと
 大仏殿の虹梁を運ぶ人々のよろこびは

ねつきようてき まつ さわ まん せんじん ひとびと
 熱狂的なお祭り騒ぎとなり、1万7千人の人々

て がっ か ねん なら とうだいじ
 の手で 9月5日(1704年)、奈良東大寺の

こうじば ぶ じ とうちやく
 工事場に無事到着しました。

【コロ】重い物を動かすときに、まさつを少なく
 するためその物の下に入れて転がす円形の棒。

(参考文献/学研現代新国語辞典 改訂第4版)

げんざい どうだいじだいぶつでん
現在の東大寺大仏殿はいつ
かんせい
完成したの？



こうりょう ほうえい ねん ぶじ むね
この虹梁は宝永2年(1705)に無事に棟

ひ あ むねあげしき おこな
に引き上げられ、棟上式がとり行われました。

ほうえい ねん だいぶつでん かんせい よくとし
宝永5年(1708)大仏殿は完成し、翌年、

らっけいほうよう おこな
落慶法要が行われました。

らっけいほうよう
【落慶法要】

じんじゃ ぶっかく しんちく ほしゅう こうじ らくせい いわう ほうよう
神社・仏閣などの新築や補修の工事の落成を祝う法要。(参考文献/学研現代新国語辞典 改訂第4版)



げんざい どうだいじだいぶつでん こうりょう
現在も東大寺大仏殿を支えている虹梁 (えびの市歴史民俗資料館 館内展示写真)

え どじだい さいけん どうだいじ なが あいだ
江戸時代に再建された東大寺も、長い間

ふうせつ いた お つどしゅうり
には風雪による痛みが起こりその都度修理を

かさねてきました。

ねん た いま こう
300年経った今も、えびののアカマツが虹

りょう どうだいじだいぶつでん
梁として東大寺大仏殿をささえています。



し れ き し み ん ぞ く し り ょう か ん
えびの市歴史民俗資料館で

じ つ ぶ つ だ い も け い
はアカマツの実物大模型を

てんじ
展示しています。

てんじょう たか なが さいげん
※天井の高さがあるので長さは再現できて
いません。



し れ き し み ん ぞ く し り ょう か ん てんじしつ
えびの市歴史民俗資料館 展示室

参考・引用文献

<図書>

資料名	発行年	著者・編者	出版社・発行所など
東大寺大仏殿って？(P1)			
国語大辞典 新装版 小学館	1981年12月	編/尚学図書	株式会社 小学館
例解小学国語辞典 第4版ワイド版	2009年7月	編/田近洵一	株式会社 三省堂
東大寺は誰が？いつ建てたの？(P2~4)			
歴史絵本 奈良の大仏	2000年10月	監修/堀池春峰 (東大寺史研究所長)	株式会社 善本社
日本人はどのように建造物をつくってきたか? 奈良の大仏 世界最大の鑄造仏	1881年4月	著/香取忠彦	株式会社 草思社
広辞苑 第5版	2004年4月	編/新村出	株式会社 岩波書店
学研現代新国語辞典 改訂第4版	2008年1月	編/金田一春彦・金田一秀穂	株式会社 学習研究社
大仏開眼1250年東大寺のすべて	2002年4月	編/奈良国立博物館 東大寺 朝日新聞	朝日新聞社
特別展 東大寺公慶上人 江戸時代の大仏復興と奈良	2005年12月	編/奈良国立博物館	奈良国立博物館
虹梁になるアカマツはどこにあったの？(P6)			
歴史絵本 奈良の大仏	2000年10月	監修/堀池春峰 (東大寺史研究所長)	株式会社 善本社
史談会誌「えびの」第21号	1987年9月	編/えびの市史談会	えびの市史談会
広辞苑 第5版	2004年4月	編/新村出	株式会社 岩波書店
こんな大きな虹梁をどのようにして運んだの？①(P7~9)			
ふるさとの誇り・虹梁物語	2006年6月	編/新原不可止	東大寺大仏殿虹梁搬送300周年記念事業実行委員会
史談会誌「えびの」第21号	1987年9月	編/えびの市史談会	えびの市史談会
学研現代新国語辞典 改訂第4版	2008年1月	編/金田一春彦・金田一秀穂	株式会社 学習研究社
こんな大きな虹梁をどのようにして運んだの？②(P10~11)			
特別展 東大寺公慶上人 江戸時代の大仏復興と奈良	2005年12月	編/奈良国立博物館	奈良国立博物館
史談会誌「えびの」第21号	1987年9月	編/えびの市史談会	えびの市史談会
こんな大きな虹梁をどのようにして運んだの？③(P12)			
史談会誌「えびの」第21号	1987年9月	編/えびの市史談会	えびの市史談会
歴史絵本 奈良の大仏	2000年10月	監修/堀池春峰 (東大寺史研究所長)	株式会社 善本社
大仏開眼1250年東大寺のすべて	2002年4月	編/奈良国立博物館 東大寺 朝日新聞	朝日新聞社
奈良の大仏さま		監修/東大寺教学部	宗教法人 東大寺
学研現代新国語辞典 改訂第4版	2008年1月	編/金田一春彦・金田一秀穂	株式会社 学習研究社
現在の東大寺大仏殿はいつ完成したの？(P13)			
史談会誌「えびの」第21号	1987年9月	編/えびの市史談会	えびの市史談会
歴史絵本 奈良の大仏	2000年10月	監修/堀池春峰 (東大寺史研究所長)	株式会社 善本社
学研現代新国語辞典 改訂第4版	2008年1月	編/金田一春彦・金田一秀穂	株式会社 学習研究社

<web検索>

webサイト名	webページ作成者	URL	アクセス年月日
東大寺大仏殿と大仏さまの大きさは？(P5)			
華嚴宗大本山東大寺公式ホームページ よくある質問	華嚴宗大本山 東大寺	http://www.todaiji.or.jp/contents/ga/#q	2022.12.23



とうだいしだいぶつでん
東大寺大仏殿 (えびの市歴史民俗資料館 館内展示写真)

発行/2023年 2月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

ホームページ



Twitter



Facebook



〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2146-2 TEL/FAX 0984-35-3144